

事業計画書

(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

1. 自然普及事業

自然環境の保全とその適正な利用にかかる調査研究、人材育成、普及啓発、顕彰、森林利活用の推進などの事業を行う。

(1) 調査研究事業

阿寒川水系の水と森林に関する調査を引き続き実施する。財団が管理する森林内を流れる阿寒川水系上流域における3河川（キネタンベツ川、チクショベツ川については平成16年度より継続、チュウルイ川については、平成27年度より継続）で降雨量、流量、土砂濃度等の調査、水の量・質などの調査を行う。

事業費 1,220,000円（前年度予算 1,180,000円）

(2) 人材育成事業

1) 一歩園自然セミナー開催事業

阿寒をはじめとする北海道内の野生動植物や自然現象、自然と文化の関わりなどをテーマとして釧路市など近隣市町村において自然セミナーを開催し、広く自然に対する意識を深める一助とする。

事業費 551,000円（前年度予算 551,000円）

2) 前田奨学金助成事業

高等学校以上の就学能力がありながら、経済的理由により進学が困難な者に対し、広く高等教育を通して自然環境の保全などに関する知識の習得を促進するため、前年度に引き続き、釧路市前田奨学金に対して助成を行う。

事業費 1,000,000円（前年度予算 1,000,000円）

(3) 普及啓発事業

1) 観察会開催事業

阿寒湖並びに当財団管理森林周辺において釧路市児童などを対象とした実体験型自然観察会（ネイチャーウォッチング、自然観察支援事業等）を実施し、自然環境の保全に深い理解と関心を持ち行動ができる人材の育成に寄与する。

事業費

598,000円（前年度予算 745,000円）

2) 自然環境保全活動助成事業

北海道の自然環境の保全とその適正な利用に関する活動、調査研究、及びその普及啓発用報告書・成果品の刊行に対し助成を行うとともに、平成28年度の助成対象者により実施された事業についての報告会を（公財）秋山記念生命科学振興財団と合同で実施する。

事業費

6,108,000円（前年度予算 6,148,000円）

3) 森林利活用推進事業

財団創立30周を契機に取り組みを開始した当財団管理森林をフィールドとする「森の学校」事業では、「教育の森」では、アウトドア環境教育について、北海道教育大学釧路校と連携・協働し、同教育大学生並びに道東圏の教育関係者（理科系教員等）を対象とした研修を実施した。また、「健康・レクリエーションの森」では「一步園森の案内人（ガイド）」の養成研修の実施及び、地元親子向け森林体験等を実施し、森林のさらなる活用に努めた。研究の森では東京農業大学と6月2日前田記念館において、東京農業大学生物産業学部と連携協定を締結した。また、連携協定に基づき財団管理森林内において「天然林における実習（3年次、18名）」、天然林やエゾシカをテーマにした「卒業研究（4年次、5名）」、オホーツクキャンパス内を案内する学生を対象にした「学内自然ガイド養成研修（1・2年次、12名）」といった取り組みがなされた。

平成29年度については引き続き「教育の森」に重点を置きながら、「健康・レクリエーションの森」ではガイド養成研修及び、地元親子向け森林体験等の事業を行っていく。また、「研究の森」においては、前年度に引き続き管理森林を活用し、実習・研究等を実施する計画である。

平成29年度は、「森の学校」事業として次の内容を計画する。

「教育の森」

- ・指導者養成

北海道教育大学釧路校との連携（次世代の教育者に対する教科教材に資するための自然観察、体験の提供）

地元阿寒湖温泉地域の教育機関との連携（教育現場の現状・課題・要望の把握等）

「レクリエーション・健康の森」

- ・「一步園森の案内人」（ガイド）の養成
- ・地元親子向け森林体験事業（ファミリープログラム）の実施

「研究の森」

- ・「研究の森」事業の周知活動

事業費 1,601,000円（前年度予算 1,000,000円）

（４）顕彰事業

北海道の自然環境の保全とその適正な利用に関する分野で活躍している団体、個人の優れた業績をたたえて前田一步園賞（200,000円／件×2件）を贈呈する。また、未来の自然環境を担う子供たち（小中学生）の自然環境の保全活動の

取組みの励みとするため、一歩園ジュニア自然環境賞（１００，０００円／件×２件）及び奨励賞（３０，０００円×５件）を贈呈する。

事業費 2,338,000円（前年度予算 2,263,000円）

（５）地域保全事業

１）山火事予消防活動助成事業

阿寒湖畔地区の森林を火災から守るため、森林愛護思想の普及啓発と山火事予消防活動への支援、装備の充実に必要な用具などに対して助成を行う。

事業費 300,000円（前年度予算 300,000円）

２）エコミュージアムセンター活動助成事業

阿寒湖畔地区におけるエコミュージアムセンターの活動に対して助成を行い、地域環境の保全に資する。

事業費 800,000円（前年度予算 800,000円）

（６）前田記念館管理事業

前田記念館および庭園の整備と保守管理を行う。

事業費 900,000円（前年度予算 900,000円）

2. 森林保全事業

基本財産である山林は、全域が国立公園特別地域、水源かん養等保安林及び鳥獣保護区に指定されており、公益的機能の維持・向上が強く求められている。このため、森林を適正に保全し、風致景観や野生鳥獣生息環境などの、森林のもつ多面的な機能を維持・向上するため、平成29年度においても引き続き保全管理・人工林保育・天然生林改良の各事業を行う。

(1) 保全管理事業

1) 巡視事業

山火事予防、入林者の危険防止、立木の盗伐防止のため林道入口に監視人を配置するとともに、阿寒湖畔沿いにある道有地の自然環境の保全等について北海道と結んでいる「公有財産管理委託業務契約」に基づき、当該土地及び立木の管理に関する業務を行う。

事業費

1,940,000円（前年度予算 1,940,000円）

2) エゾシカ食害対策事業

北海道の発表によると平成27年度のエゾシカによる道内農林業被害額は42億5,000万円（前年度比3億6,000万円減）とピークであった平成23年度における64億円の被害より年々減少している。また、道内のエゾシカ推定生息数も平成22年度の66万等をピークに年々減少し、平成27年度は47万頭（前年度比4万頭の減）と推定される（北海道公表資料より）。

全道的にみると、被害額・推定生息数ともに低下しているが、北海道の定める「エゾシカ保護管理計画（第4期）H24.4.1～H29.3.31」による釧路管内を含む北海道東部地域の管理目標値は、平成5年の個体数を100とした指数値を平成28年度末までに指数50とする目標に対し、平成27年度においても指数は92に留まっており、目標達成のためには直近の20年間に於いて最もメスのシカを捕獲した平成24年度並みの5万頭のメスシカ捕獲が必

要という状況であり、依然深刻な状況が続いている。

このような中であって、財団管理森林内においてはこれまで継続してきた給餌や囲いワナによる捕獲といった対策事業により樹皮喰等の被害を抑制することに成功しているが、依然として楽観視はできない状況である。

このため、平成29年度も前年度同様「ビートパルプの給餌」、「囲いワナによる捕獲」、「樹皮防護ネット巻き」といった対策事業を継続して実施することにより森林被害防止に努める。

また、囲いワナによる捕獲において、捕獲業務の効率化および夜間ワナ内に侵入するエゾシカへの対応のためワナを改良（設定内容により自動で捕獲用扉を閉める装置の導入）する。

なお、対策事業実施にあたっては、近年の給餌実績・捕獲実績を勘案した事業量とする（給餌量60トン（前年比6トン減）、囲いワナ数2基（前年同数））。これらの対策とあわせて、エゾシカの生息状況や給餌事業の効果などについて、大学や研究機関と連携して調査を行う。

加えて、エゾシカ食害防止対策として過去に設置した侵入防護柵の補修を実施する（4箇所）。

事業費	12,980,000円（前年度予算 9,050,000円）
-----	-------------------------------

3) 林道事業

春の雪解け後の全山林道・作業道の支障木除去、ならびに既設の林道・作業道の維持管理、およびゲート等の関連設備の補修・改良を行う。

事業費	1,500,000円（前年度予算 500,000円）
-----	----------------------------

4) 調査事業

人工林保育・天然生林改良の計画立案に必要な林況を把握するための調査を行う。これら調査の内人工林の林況についての調査は、平成26年度より3年間の予定で計画した調査を平成28年度も継続し実施した。この調査によりこれ

まで約４５年間かけて植栽を行った人工林１，１８１haの内１６６haについての資源量の調査を行った。今後も本調査を継続し、人工林保育の計画立案に必要な情報を収集する。また調査に必要な資材等を購入する。

事業費 １，７６０，０００円（前年度予算 ２，７１０，０００円）

５）危険木等処理

危険木・支障木等の処理（伐採・移動等）を行う。なお、今年度は昨年度の台風被害地である阿寒川沿いの危険木の処理も実施する。

事業費 １，０００，０００円（前年度予算 ５００，０００円）

（２）人工林保育事業

１）植樹祭事業

植樹祭に係る苗木の購入、地拵え、下刈を行う。

事業費 ２９０，０００円（前年度予算 ３４０，０００円）

２）除間伐・枝打事業

植栽木の健全な成長を促進させるため、人工林３８haの間伐（内、台風被害地９ha）、２８haの枝打ち、および伐採木（４１０m³）の搬出を行う。

事業費 １０，４６０，０００円（前年度予算 １０，７８０，０００円）

３）人工造林事業

平成２８年度台風による被害地の回復を図るため、人工林内の被害木除去跡地４．４haにトドマツ（総本数３，０００本）を植栽する。

事業費

1,760,000円（前年度予算 0円）

（３）天然生林改良事業

１）誘導造林事業

平成２９年度計画なし。

事業費

0円（前年度予算 6,830,000円）

２）誘導造林下刈事業

植栽木の健全な成長を促進させるため、平成２４年～２８年の植栽地７３haの下刈作業を行う。

事業費

2,390,000円（前年度予算 2,320,000円）

３）天然生林間伐事業

天然生林において林分構成の充実を図るため、６２haの間伐（内、台風被害地１１ha）、平成３０年度以降の植栽予定地３４haの更新伐（内、台風被害地３４ha）、新規作業道の開設（合計１,８００m）、および伐採木（１,９８０m³）の搬出を行う。

事業費

43,680,000円（前年度予算 39,020,000円）

（４）業務費

森林保全事業に係る「旅費交通費」、「諸謝金」、「雑費」。これらに加え、平成２９年度は調査や計画立案の効率化を図ることを目的に森林地理情報システム（GIS）の更改を行う。

事業費

2,900,000円（前年度予算 1,180,000円）

3. 土地貸付事業

基本財産である土地（山林、宅地等）は、全域が国立公園特別地域、保安林、鳥獣保護区に重複して、あるいは単独で指定されている。さらに阿寒湖畔の土地は、国立公園集団施設地区に指定されているなど、公益性が強く求められている。

このため、土地の管理保全及び適正な利用を図り地域の振興に資するため、前年度に引き続き土地の貸付を行う。

（1）土地保守・管理事業

財団所有地における土地の保守と管理を目的に、主に空地等の緑化（植栽等）やベンチ及び看板などの設置を行う。

また、市街地の財団管理地内において立木の成長や枯損木等により近隣家屋への支障や人的被害などの危険性が高いものについて、調査・整理伐採を実施する。

事業費 1,300,000円（前年度予算 1,150,000円）

（2）土地貸付

前年度に引き続き、表3-1のとおり土地の貸付を行う。

（表3-1）土地貸付等状況一覧

契約区分	平成28年3月現在		平成29年1月現在		備 考
	契約件数	貸付等面積	契約件数	貸付等面積	
有償契約	205件	519,584 m ²	204件	519,375 m ²	電力会社送電線敷地41haを含む。 北海道、釧路市、森林管理署、アイヌ協会外
無償契約	19件	346,115 m ²	19件	346,115 m ²	
計	224件	865,699 m ²	223件	865,490 m ²	

4. 温泉事業

当財団が所有する源泉は、阿寒湖温泉のほぼ全域のホテル・旅館等に温泉を供給しており、その公益性が強く求められている。このため、源泉及び温泉供給設備の拡充と安定供給体制をより一層強化するため、施設整備の計画的な推進を行う。

(1) 温泉供給施設の整備

1) 揚湯ポンプの拡充事業

各源泉共通の予備温泉ポンプ（7.5kw）を1台、及び、揚湯管（4m×8本）を購入し、温泉の安定供給の確保に努める。

事業費 2,000,000円（前年度予算 2,850,000円）

2) 温泉計量器の交換整備事業

温泉計量器（流量計）を交換整備し、温泉供給量を把握することにより、温泉の安定供給と資源の節約に努める。

事業費 200,000円（前年度予算 250,000円）

3) 温泉供給施設の整備事業

27年度から行っている温泉供給設備（ヘッダー）の整備事業を29年度においても実施する。

現在の塩ビパイプ製の設備をステンレス製に変更することによって耐久性と自在性が増し、よりコンパクトで供給管理が容易になることに加え、その後のメンテナンス業務においても利便性の向上が見込まれる。

また、供給設備の適正な利用と長期的な保存を図る観点から、格納庫の新築も行う。

27年度は15号源泉、28年度は11号源泉にて実施し、成果を挙げていることから、29年度においては12号源泉にて実施する。

事業費 4,200,000円（前年度予算 5,100,000円）

4) 13号源泉インバーター改修事業

13号源泉の供給システムに、現在の流量制御から、圧力制御を行うためのシステムを組み込み、温泉の安定供給の確保に努める。

事業費

900,000円（前年度予算 0円）

(2) 源泉及び温泉供給設備の管理

平成29年1月現在の当財団所有源泉数は前年度から増減なく15本（内、稼働中12本、非常時用予備1本、観測井2本）である。前年度に引き続き、平成29年度においてもこれら源泉及び温泉供給設備の管理保全に努める。

(3) 温泉供給

前年度に引き続き、表3-1のとおり温泉供給を行う。

（表3-1）温泉供給状況一覧

供給区分	平成28年3月現在		平成29年1月現在		備 考
	契約件数	供給本数	契約件数	供給本数	
有償供給	66件	298本	66件	298本	
無償供給	3件	4本	3件	4本	北海道（阿寒湖畔診療所）等
自家用		3本		3本	暖房等財団諸施設
計	69件	305本	69件	305本	

5. その他

(1) ホームページ管理委託事業

ホームページの管理及び、更新等を専門業者に委託する。また、今年度については、業務関連情報や、阿寒湖の観光に寄与する「一步園森の案内人」や「光の森」等の紹介ページを増設し、ホームページの内容を充実させる。

事業費

220,000円（前年度予算 120,000円）

事業費については、実施事業等会計、その他会計、法人会計で配分し支出する。